

動きだした 「日本オーガニック会議」

—農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄—



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

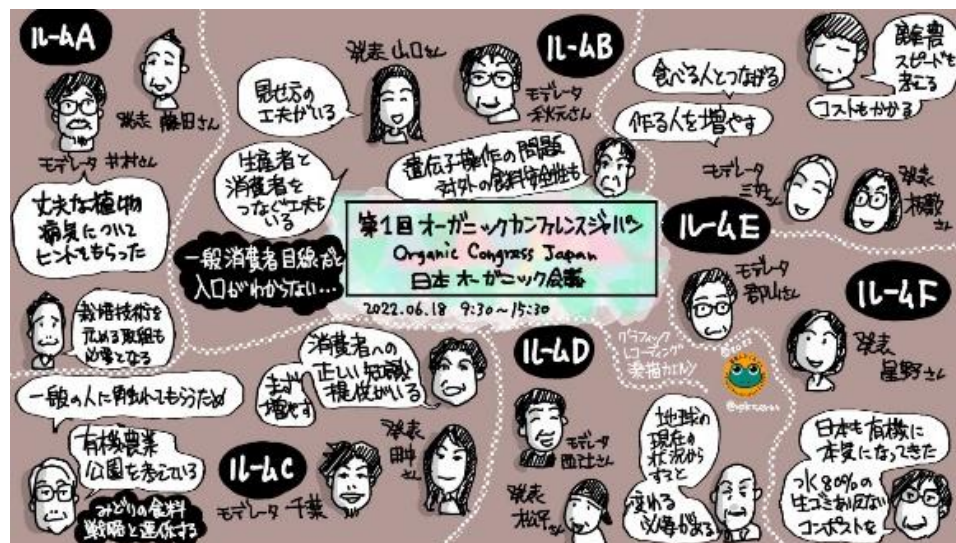
東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫入行、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表。

6月18日は、国連が2016年に制定した「持続可能な食文化の日」である。持続可能な開発目標（SDGs）を達成していく取り組みの一つで、持続可能な食文化への意識を高めることを狙いとする。食の安全・栄養、持続可能な食料生産や生物多様性の保全、地元生産者とのつながり、貧困の削減や資源の効率的な使用、環境保護や文化的価値、多様性の保護などへの貢献を目指す。

その6月18日、「日本オーガニック会議」の主催で第1回オーガニックカンファレンスがオンラインで開かれた。同会議は、有機農業者や農業組織、消費者団体、流通・加工業者、研究者ら44の個人や企業・団体などで構成する実行委員会が運営する形を取っている。既に政策提言やロビー活動を先行させる一方、全国に向けた活動の第1弾として、同会議の設立を広く内外に宣言する機会にも位置付けてカンファレンスを開いた。

21年5月に農林水産省が「みどりの食料システム戦略」を決定したことを踏まえ、6月に全国有機農業推進協議会、持続可能な農業を創る会、有機農業参入促進協議会、日本有機農産物協会、次代の農と食をつくる会、オーガニックフォーラムジャパンなどのメンバーが中心となって準備会を発足。12月8日に第1回の実行委を開き、同会議を発足させた。同会議の活動の柱は、生産者と消費者、行政、企業との情報交換・発信を担うプラットフォームとしての機能を果たしていくところにある。有機農業の推進に向けた課題を共有し、現場の実情を踏まえた議論を展開していくことによって、政策提言と同時に官民協同での政策立案を目指す。

第1回カンファレンスは、「オーガニックを推進するための課題共有や方向性策定に向けて議論する場」「オーガニック推進に向けた多様なステークホルダーの連携創出」を狙いに、午前は実行委員40人超による1人3分間のプレゼンテーション、午後は六つの部屋に分かれての議論と、それを踏まえた全体討議を実施。食文化や教育、食料安全保障など、多様な議論が交わされた。総じて、各実行委員の活動状況や取り組み姿勢などを率直に披歴し合うことによ



六つの部屋に分かれての議論のグラレコ

を率直に披歴し合うことによって、コミュニケーション形成が大きく進んだ感がある。9月中旬には第2回カンファレンスを計画。政策提言の発表や、農業・自然環境・気候危機・生物多様性・エシカルといった多様な切り口でのフォーラム開催、官民連携会議の開催を予定しており、みどりの食料システム戦略の推進をリードしていくことを期す。同会議では有機農業を核としながらも減農薬減化学肥料の取り組みとも連携していくことにしており、昨年のJ A全国大会決議で環境調和型農業への取り組みを明記したJ Aグループとの連携も今後の大きな課題となる。